

児童館・学童クラブを取り巻く現状とあるべき姿

重点検討項目

対象	項目	現状の問題点	あるべき姿
小学生	安心・安全な子どもの居場所	児童館 子どもの安心・安全が脅かされ、保護者の不安感が広がり、子どもが安全に過ごせる場所が強く求められるようになっている 安全・安心な子どもの居場所として、児童館の利用者が増加しているが、児童館の空白地域がある他、学童クラブ登録児童の増加により一般の利用が制約されている館がある。	すべての子どもたち(小学生)を対象とした、安心・安全でかつ一定の整備が行われた居場所・遊び場が、区内に偏りなく存在している。
		学童クラブ 入会希望が増大しており、登録制の導入により待機児を解消したが、今後更なる需要増が見込まれる。 子どもを迎えに行ける時間までの時間延長、学校での実施、年末の運営日の拡大を求める声がある。 登録制を実施した結果、入会児童が多すぎて、極め細やかな対応が困難になっている場合がある。	学童クラブが安定的に運営され、多様なニーズに柔軟な対応がされている。
	豊かなくらゝ子どもの遊び・生活・人間関係	子どもの数の減少、TVゲームの普及や塾・習い事の増加などにより、生き生きとした子どもの遊びや子ども同士の関りが少なくなっている。 物理的には豊かになったが、自己肯定感を持ってない、心が充たされていない、などの子どもが増えている。 大人とのコミュニケーションや対人関係を円滑にすすめる力を培う機会が減少し、他人の話が聞けない、痛みがわからないなどの問題が生まれている。 子どもの地域社会への参加・参画が少ない。	子どもに効果的にはたらきかけるプログラムが存在し、家庭・地域・関係機関の協力関係の下、子どもへの支援が一体的に行われている。
乳幼児	つながり親子の居場所	乳幼児親子が気軽に集まり交流できる居場所が求められているが、児童館のゆうキッズは、午後の時間や夏休みなどは小学生の利用が中心で十分に対応できていない。 相談できる人が近くにいない、人と打ち解けるのが苦手、などの理由により、生の情報・つながりが少なく、若い母親が孤立している例がある。	乳幼児親子を対象とした専用スペースが区内に偏りなく存在する。 地域の中に身近に交流や相談ができる場や、親子同士のつながりの輪に誰でも入れるようなサポートがあり、若い母親が孤立していない。
	預かり児の一時	地域関係の希薄化や核家族化の進展によって、子どもを短期間、短時間気軽に預けることが難しくなり、育児疲れなど子育ての負担感の解消のために子どもを一時的に預かってもらえる場所への要望が高い。	身近な地域に、保護者が安心して子どもを一時的に預けることができる施設がある。

対象	項目	現状の問題点	あるべき姿
中高生	場中高生くの居	学校や家庭に居場所を見出せない中高生が、目的を持って活動できるような場所が必要だが、「ゆう杉並」以外の児童館で対応するには施設や設備をはじめとした受け入れ体制に限界がある。	中高生のニーズに即した居場所が区内に偏りなく存在している。
	自立中高生世代の	不登校や引きこもりが大きな問題となっており、中高生世代の自立支援が求められているが、現状では体系的な施策がなく支援が不足している。 薬物の氾濫や性モラルの低下など、子どもが健全に育つ環境が脅かされている。	自立支援のための拠点や体系的なプログラムが存在する。
障害児	障害児の放課後支援 児童館	障害児が、地域で遊んだり、友だちと交流する場や機会が不足している。	障害児が地域で遊び交流する場やプログラムがある。
	学童クラブ	障害児の学童クラブへの需要が増大しており、需要の偏在への対応、通所支援、軽度発達障害児への対応など、より極め細やかな受け入れの取り組みが必要になっている。 重度重複障害児の受け入れ体制が整っていない。 (高円寺北児童館でしか対応できていない) 保護者が就労している中高生障害児に対応した、放課後対策が十分でない。	全ての受け入れ可能な障害のある子どもの、学童クラブへの需要を充たしている。 保護者が就労している中高生障害児の放課後の居場所がある。
家庭・地域	保護者・家庭支援	保護者への対応や関係諸機関との連携など、広く子育て支援の観点からの専門性が求められるようになってきているが、それに十分に対応できていない。	身近な相談機能やつながりづくり、子育て支援プログラムが充実している。 家庭支援や地域コーディネイトのできる、幅広い視野と専門性を持ったスタッフが多く存在する。
	が地域づくりな	地域ぐるみの子育てや異世代交流など、地域全体で子どもたちを見守るシステムを作る必要があるが、住民同士のつながりが希薄で、子育てや子どもを応援する緩やかなつながりが十分ではない。	地域の中に子どもたちを見守るシステムが構築されている。
	業区民との団体協働・民間事	子どもと子育てを支える区民や民間の活動を活かせず場やシステムが不足している。前回の検討会で児童館プログラムへの区民・NPO等の参画の方針が出されたが、十分に組み込まれていない。 協働の取り組みのひとつとして学童クラブの委託を開始したが、担い手の育成や館内学童クラブの委託の形態、方法などの課題が残されている。	子どもと子育てを支える区民や民間の活動が活発に行われている。 児童館において、区民やNPO等との協働によるプログラム等が活発に行われている。
共通	施設	施設の規模や職員の体制から全ての児童館で0才～18才を受入れ、全ての利用者に満足してもらうのは無理がある。 狭小化、老朽化及びそれによる修繕コスト増などにより、施設の改善が必要である。 原則として、1小学校区に1児童館が設置されているが、久我山小・大宮小・新泉小・永福南小の学区域には児童館がない。一方、三谷小の学区域には、2つの児童館があり、今後も、小学校の統廃合により、同様なケースが生じる。	すべての子どもたちの需要に応える、安心・安全でかつ一定の整備が行われた居場所・遊び場が、区内に偏りなく存在している。